ポキッ!
あっ
エドガー
メリーベル
エドガー
ぼくはここだよ
母さま

…わかれをおしんでたの……
また帰ってくるさ
この村にもこの館にもこの家にも……
そろそろ出発だ母さまが呼んでた
パキ
兄さままたそのクセ
ん
バラを折らないでかきキズだらけよ
あ

さようなら ポーツネルさん
どうぞ お元気で
―悲しいこと 長年の 知り合いと さよなら するのは……
いつかまた この村へ 帰っていらして くださいね
さようなら みなさん
わたしたちを 忘れないで くださいね
いつのことか またきっと 帰ってきます この村へ わたしたち 一族の ふるさとへ
…どうぞ …ご用心を
くれぐれも お気を つけて
〝町〟には その〝住人〟には…
さようなら ポーツネル さん!
さようなら
さようなら
さようなら バラの咲く村 ポーの村!

ホッ
ザワ…
きみ…あのかたたちは……
本日午後ロンドンからこのホテルへお着きになったポーツネル男爵のご一家です
ロンドンからですって…!
まあどうりで気品が……あの服ごらんなさいましよ

いい絵だ…一枚の完ぺきな絵だよまさに！そう思わんかねクリフォードくん
！
思いますねカスター先生
むかいの若い男が母さまを見てるよ
だまってエサを食え
エサ？どっちがエサだか…
…
どうしたのメリーベル
…ほしくないの
いただきなさいからだがもちませんよ
…でもほんとうにほしくな…
メリーベル
失礼！
…まどなた
われわれは医師ですご心配なく
お嬢さんを…あなたがたの部屋は？

馬車の
長旅で……
つかれが
でたん
ですわ
きっと
お嬢さんは
貧血ぎみの
ようですね
こういう
ことは
しょっちゅう？
……ええ
……もう
からだの
弱い子で…
この町には
療養に
まいりましたの
町はずれに
静かな
家でもさがして
ゆっくり……
なるほど
いろいろと
お世話を
かけて
先生……
いえいえ
お知りあいに
なれて
光栄ですよ
男爵！
いやな
お医者！
母さまに
色目つかって

あら 感じのいい
先生だったわ
お年よりのかたは
すてきなおひげで
お若いかたは
ハンサムで…
エドガー……！
おぞましい
……
おそうとは
なんだ
それは選民だ
お気にいり？
じゃさっさと
おそって
血を
吸ったら！
われわれの
一族に
迎えいれるの
だ！
こういったらどう！
われわれは
バンパネラだ！
そんな人間どもの
スキャンダラスな
ことばはよせ！
なにを
気どって
おいでになる
おなじこと
じゃない
血を
吸わなければ
生きていけない
怪物だ！
村をでて
市にやって
きたのは
新しい血を
いけにえを
手にいれる
ため!!
エドガー!!

おきてた？
父さまとケンカしたの？
いつものことさ
気ぶんは？
いつまでこの市にいるの？
きみの病気がなおるまで
あたし病気じゃないわ…
だまって休んどいで
ぼくの血をのむ？
悪いわ…このところいつもだもの…
たおれるまでがまんせずにそういいなさい…
ぼくはいいんだから
メリーベル…かわいそうなメリーベル
日びがあのまま過ぎていたら…
ぼくなどのためにこんなめにあわずにすんだのに…
こんな呪われた身で生きるめにあわずに…

ほう…みごとだ
ときどき馬場にお見えになります
貿易商会のご子息ですよ

ス
ウ……ッ
ふ
ブル！
キュッ！

ぼくはアラン
アラン・トワイライト

ぼくはエドガー

見かけないな おなじ学校じゃないいな
学校？

セント ウィンザーだ 決まってるだろう

…ぼくの一家は 岬の家へ ひっこしてきた ばかりなんだ

あの 赤い家？ いつ
そう つる草の はりついてる …つい昨日ね

…よそもの か……！

岬はどっちの 方向だろう？ ぼくは迷った らしいんだが
右！

どうも アラン・ トワイライ ト……

ザザ
メリーベルのために新しい血がいるのなら

ザザ
それがなぜ彼のであってはならない?

波の音がうるさくてきこえなかったなんといったエドガー
学校!
ぼくたちが子どもらしい子どもでいたら父さまたちも仕事がやりやすいんじゃない
あらあたしもいきたいわ!
…例のすてきな先生たちのさ
学校へいきたいって……

エドガー ガラスに映ってない!!
ようし それでいい
胸にクイをうちこまれたくなかったら
つねに人間であるふりを忘れるな!
ビクッ!
息をしているふり…脈のあるふり…
鏡に映るふり ドアに指をはさまれたらいたがるふり…
それくらいできる やってみせるよ
ようし やってみろ では
…友だちをつれてくるよ
ほんと? だれを
アラン・トワイライト
つまらないわ
兄さまが学校にいったらあたしはずっとひとりだわ

男爵から話をうかがってますよ このセント・ウィンザーは
もともと寄宿制度ですが通学生も少数いていずれも良家の子息…
ミサは七時から…でもお宅に聖堂があればそこですませてきて
だれ？
転入生だって…
岬の家のさ
八時半から授業を
教本はこちらでラテン語ギリシャ語それに幾何…
遠まきか…まあ第一日めはそんなものだ
——で——彼はどこにいるんだろう

…やあ！
スイ！
やあ
アラン
おぼえててくれてると思ったんだがな…

ほら先週馬場であったろう？
じゃまだよ読書中だ！
きみはどのクラス？最上級？おなじクラスで勉強できたらいいな
じゃまだよ
だれゲーテか
……
エッケルマンを読んだ彼がゲーテをなんていったか知ってる？
きみはどこからきたって？
ロンドン
なるほど転入第一日めでなにも知らないわけだ
まあねきみが学校のこといろいろ教えてくれるなら——
じゃ教えてやるぼくがじゃまだといったらどくんだ！
ぼくが右を向けといったら右を向くんだ！ぼくが声をかけるまでおとなしくしてろ話しかけたりそばをうろついたりするな！
これがこの学校のぼくの規律だしたがえ！

アラン・トワイライトの規律……？
上段にかまえてなにをしようってんだい
バカらしい…
…ぼくが十八になったらうけつぐ財産は今おじが管理してて
この市この港中がその配下にあるんだ
ぼくがひとことといえば
へえ　そう
つまりひとりではなにもできないわけか
ぼくにそんなくちを……
きいたらなんだい
気にくわないやつならぼくならこの手でしまつをつける
あの転入生なんていった
ふ
もうすこしましなやつかと思ってたが
バイ！　家で妹のおもりしてたほうがずっと意義がありそうだ
転入生だよ
えっ
あ…エドガー・ポーツネル？

おい
この足は
なんだ！
足？
どーの足？
この足
だよっ！

こいつ!!
新いりの
くせに
やっちまえ
こらーっ
やめなさい
なにを
さわいでるっ!
すみません
ガラスを
割って
なんと…
な…ん…きみ
血が…血が…
医者 医者を
医者を……

わ
ドタ！
先生を医者につれていくんだね
馬車！
はなせよなんの…
じょ冗談でしょそんな血だらけの！
止まれぼくはアラン・トワイライトだ
どうぞ
のって！
へい
リグビー通りのクリフォード先生の家へ！

ギャッ
先生!
ケガ人ですが!
ン……
だれです…さっきの女のかた…先生の
誤解しちゃ困るよ彼女の割れたツメにクスリをぬったんでたんなるお礼さ
へえ　この町の医者は女性に親切なんですね
子どもはませたくちをきくもんじゃない
すこし首あげて…
…子ども
いやみだよそんなせりふは十年もたっておとなになっていうもんだ

……
十年たっても
ぼくはこのままだ
失礼……
――これは男爵…!
時は知らぬふりしてぼくのそばを通りすぎ――
おっとおうちのかたが見えられたようだ
十年たってもおなじ朝を迎え――
手あてが今すんだ……
バン!
……
――あなた

失策はするなとあれほどいっておいたろう！
いったいそのザマはなんだ！

いいじゃないのおかげですてきな先生といっそう親しくなれたわ
それとはべつだ！
いいかエドガーそのキズは一週間はなおすんじゃないぞ

明日にはなおるよ
いかん人間なら一週間かかるキズだ先生がそういったキズ口をおさえておけ！

ずっと家にいるの学校にはいかないの？
ああとうぶんね

ふうんお友だちをつれてくるっていうから楽しみにしてたのに
シッ

友だち？友だちとはなんだ
なんでもない！

エドガー よけいな手をだすんじゃないぞ!
わかってるよ 一族にくわえるには成人でなけりゃだめだってことはね ぼくたちをつれてるおかげで父さまたちはおなじ土地に二年つづけていられない
へんね あの男爵さまのごきょうだいはすこしも成長なさらないようね
じゅうじゅうわかってるよ!
どならんでもきこえる わかってりゃいい!
でも ぼくがどんなに孤独かあなたがたにはわかるまい
時が通りすぎていく
十年たってもおなじ朝を迎え…

兄さま 見て! ツタの かんむりよ
ダメだよ メリーベル ダメだよ!
メリーベル…
そんなに はしゃいだら また病気が――
メリーベル メリーベル
へいき! ずっと気ぶんは いいのよ
ぼくの命
ぼくの愛
一族に くわえたい―― なんと してでも 彼
―アラン

ああ
ようこそ
先生
ごきげんは
トワイライト夫人
夜はよく
おねむりに
なれます
か
クリフォード
先生
ん?
アラン?
あれから
エドガーの家へ
いかれました?
彼のケガ…どう?
ほとんど
なおってると
思うが
アランや
お友だちのケガ?
おまえは
大丈夫
なんだろうね
ぼくは
そんな
乱暴なこと
やらない
信用しないよ
男の子の
いうこと
だもの
お父さん
そっくりに
なって…

ハデに男爵がおこってたからねどうぞ夫人……なんだったら家をたずねてみたら
家をたずねる!?
そんなことできるわけないだろなんでぼくがわざわざ
でも気になるんだろう
バタン…
ケガをさせたのはこっちだけど
医者につれていったし──
出血のわりには小さな切りキズばかりだったし
このうえなんで心配してやる必要があるんだ…
フフ…
……あなたのママときたら
クリフォード先生のいらっしゃる水曜にはお顔の色のいいことったら……!
髪ゆっておけしょうなさって!
四十のおばあちゃんが!
マーゴット!
先生!診察おすみ?待ってアンお話が!
…どっちが…

これをさげて
おくれ
クリフォード
先生に
まつわりつくん
じゃないよ
マーゴット
あーら
十六の若い
花咲ける娘に
先生がおネツ
なのよ！
バカおいい
十五でしょ

あの
チビ！
！
おまえは将来
アランと結婚
するんだからね

まじめに
おきき！
父さんだって
なんのために
死んだ弟の
貿易会社を
ついでやってると
思うの
ハイハイ
ハイ
マーマ！
あ

フ

これが
全市に
名だたる
トワイライト家の
実態
みながうらやみ
きげんをとりたがる
金持ちの幸福な
ご子息の——

あんなやつ
初めてだ…

どうしたんだろう…

もう十日以上たつのに―

エドガー・ポーツネルはまだ学校にこない

家をたずねてみたら——?

そして? ハナさきでドアを閉じられたらどうする?

学校にいかないの? エドガー

シーッ
こら
おすなよ！
あら…
こんにちは
やや
やあ
あ　あの
兄さんの
お友だち？
かーわいい
に
兄さん？
じゃ
やつの
妹か！
エ　エドガー
いる？
なにしに
きた
セント・ウィンザー
の生徒が
こそこそと
なんのまねだ
人の家の庭に！
いるわよ
呼んでくる
わっ
いい　いい
いい！
呼ばなくて
ほんと
呼ばなくて
いいよ

あの　あの
そんな
つっかかる
なよ
ただきみが
学校に
こないんで
心配してさ
ケガがどうなったかと
心配？
アラン・トワイライトが
…
今度は
いくら
もらった
…
…六ペンス
フ　正直でいいや
さあ帰れ…
今度
この家に
近づいたら
六ペンスじゃ
安かったと
後悔する
ことに
なるぞ
…！
どうして
おいかえしちゃったの？
エドガー
どこへ
いくの？
ちょっとね
おまえは
家においで

王子は六ペンスで使者をおつかわしになった
バカバカしい なんて お坊っちゃんだ!
エドガー
メリーベ… …!
エドガー 足が早い ……
家に いろって いっただろ! 帽子も かぶらずに…
だって ……
ほら メリーベル あの家ね ぼくはあそこに用があるんだ 見えるだろう 水色の屋根の
すぐもどる からね ここで 待っておいで
ええ
おだまり アラン! なにもわかって いないくせに……!
ちゃんと 葉影に いるんだよ 動くんじゃ ないよ
うるさい!

うるさい
うるさい
うるさい
もう
たくさんだ
たくさんだ
アラン
みんな
どこかへ
消えて
しまえ！
これ
アラン！
なんて
子だ！
ハン
あまやかし
すぎよ！
あいつら
今に
みんな家から
おいだして
やる！
好き放題に
して…なにが
おばだ
いとこだ
……

…最初は
ネクタイ
ハンカチ　次は
せわの
やける
こと
ちゃんとふくの
そのハナの頭も！
せっかく妹を
紹介しようと
つれてきたん
だから…
男まえのとこ
見せたいいだろ！
キラキラ
キラキラ
メリーベル！
ああ
エド…

水をアラン！
どうどうし…
貧血だよいつもなんだ早く！
…水
…
なんでぼくが
…メリーベ…メリーベル…
…メリーベル
…ごめんなさい…血をくれたのね
…わたし…いつもやっかいかけて…
きみはぼくを許しちゃくれない
きみはぼくをにくんでいいんだ……うち殺したっていいんだ
エドガー
なにもかもぼくのせいなんだからなにもかも
エドガーエドガーいやよ

兄さんだけよ！いつもわたしのそばにいて
いつもわたしのこと考えてくれるの
ずっと小さなころからそうよ
ずっと小さなころから
わたし知ってるのよなぜ村をでて町へきたか
兄さんのいうお友だちってなんなのか
きみは…それでいいの…？
エドガー水を！
きみはだまってそこにいる
なにもいわずともそしてわかってくれる——

あ
ありがとう
こっちへ
ドキン
ロゼッティ
ローザ
話したろ
アランだよ
ごめん
なさい
お水
ありがとう
……いや
……その
……べつに
単なる
水……

おはよう エドガー・ポーツネル
おはよう ひさびさだね
おはよう
おはよう!
…おはよう きたね
おはよう
きみたち 昨日あれから すぐ帰ってしまったけど
メリーベルは どう?
いいよ 母さまが そばについてる
?
みんなきみに あいさつしないね
あいさつなんか されて たまるか
いったろ ぼくの規律だって
……それより
なんだい 見せたいものって
きみ きっと おどろくよ こいつさ
ギク!

どこで これを 手にいれた!?
…おい! おどろいたな これは ロゼッティ・エンライトだよ ぼくの婚約者 だった…!
——ああ アランが 知るはずは ないんだ
メリーベルが まだずっと 小さくて ぼくたちが 人間だった そんな
…百年も 昔のことを ……まさか
おどろいた てっきり メリーベルの 焼き絵かと 思って…
だろう? ぼくも昨日 きみの妹を見て びっくりした
もういない はずの ローザが…

どこかで成長してて
いきなり昨日
きみの妹のふりして
現れた気が
してさ…
いつなくなったの？
六年まえ
港で
ちょっとした
事故が
あってね
ぼくは父と
婚約者を
同時に
なくした…
ローザは
七つだったよ
そんなに
小さい
ころから
結婚相手が
決められてた
わけ？
その子が
好きだったの？
きみは
ワザと
！
ぼくを
死ぬほど
おどろかした
バツさ
…!!
ケンカ
だっ

ひとことぐらいあやまったらどうだ…!
…!

そんなにたいせつな絵だったの…?
たいせつな!?
ローザの絵はあれっきりなんだぞ!

メリーベルはローザじゃないきみがどう思ってるか知らないけど

それにきみは一生あの絵をしたって生きてくつもり…?

ね!?
顔がにてるってことはさつながりがやっぱりあると思うよ
そ…そう…
両方の先祖がさ二百年かもっと血すじをさかのぼってみたらひょっとしておなじ家の出身かもしれない

あんがいぼくたちもいとこ同士だったりしてさ!
まさかごめんだ!
ほんとだよだいたいアダムとイブが基点だから

アラン・トワイライト？
彼がどうかして？
したしすぎるー どういうわけだ
どういうわけって？
おとうさまはあなたに
よけいな手をだすなといっておられるのよ
そう そしてあなたがたはなにをしてるの
なにもしていないじゃない…!!
なにをいっても早く手をだしたものが勝ちだ ぼくにだって……
わたしたちはおまえの親だ！ おまえだけがメリーベルの心配をしてるんじゃない！
親じゃない

あんなことをいわせておけるか！
むすこと競争なさるおつもり？おかしなかたね
あのバカはわたしのいうことなど聞かないつもりだ！
だとしたら
さ動かないで
母さま…きれい
そりゃクリフォード先生も一発でまいるね
先手をうつしかない！
今夜やるの？
今夜はディナーの招待をうけただけ敵情の視察だ
のろいね
いそぎすぎるとたいていのことは失敗するとくにー
われわれが生きていくためにはいっさいが静かであらねばー
おまえにもそれはわかっているのだろうな！
よい夜を…

あの…お花ここでいいかしらジャン
いいよ カスター先生は？
お父さまは書斎で…
また本か! お客がくるってのに まったく!
…ジャン …あ…
新しいドレスなのよ …ひとことなにか いってほしい……ジャン…
こんばんは おまねきをうけて…
カチャ
どうぞ
あ…
シーラ・ポーツネル夫人 なんておきれい …!

カスター先生したくは…！
ガチャ
ほ…！はでなタイをしめたなクリフォード！夫人にいいとこみせるためか？
なに？そこからドアは見えないのに… どうして…
鏡だよちょっと配置をかえた
鏡？
お父さま…男爵夫妻がお見えですわ
あ…！ジェイン
カチャ

ひどいな！これじゃぬすみ見じゃありませんか
もちろんさムッヒッヒアハン！
あお通しして

？

おようこそおふたかた
すこし遅れまして…

ギクッ

クリフォード
なにをそこで
つっ立っている
シーラ夫人！
これは
お美しい…
…は

鏡に
映らなかった…

ドアだけが
閉じて
鏡に映ら
なかった……！
まさか！
結局
フランスを
共和制に
みちびく
ために

パリ市民の
犠牲は
必要だった
政治の話は
ご婦人がたの
お気に
めさぬよう
だな
あら
そうね
ロマンチックじゃ
ありませんわね

それより
お式は
いつですの？
こんなかわいい
フィアンセが
いらっしゃるなんて
ぞんじません
でしたわ
クリフォード
先生？
まさか…

おい
ジャン
は!?

いや…じつに楽しい夜でしたではまた…

手 すこしひえている…
外気のせいか

どうしたんだね美人がいるとすこぶるさえるきみの弁舌がさっぱりとは！
は…
ん？夫人にみとれて声もでなかったか…ハッハ！
お茶をくれジェイン
は…はいお父さま
…あのなんでもないんですよ ジャンはただ美しい花にみとれてるだけです ジャンはいつも婚約者のあなたを…
いつもわたしを
せわになった恩師の娘としてみてますわ
…ごめんなさい…わたしどうかしてます…お茶をいれますわ…どうぞでていらして

ジェインお嬢さん…

シーラ夫人あのかたほんとにお美しい……
男の人ならだれだって…

ジャン・クリフォード
おまえはジェインさんの気持ちを考えたことがあるのか!
ジェインさんは心からおまえを愛してるのに
人間がー
鏡に映らないとしたら　それはなんだろう?
知るか　そりゃバンパネラだ!
たしかにおまえはカスター老先生のお気にいりだ
そして山ほどの女にもてて…
だけど…!
では人間ではないことになる
それこそ
バカバカしい
クリフォード!
ジェインさんは考えるのはやめだ
ああジェインはほんとにいい娘だ
美人じゃないがよき妻になるだろう
だが恋人むきじゃない
ロマンスは自分でさがす
シーラ夫人は魅力的だろう?

錯覚だ…
バカバカしい
どうかしてる
もう二十年もすれば
二十世紀がくるという
この科学時代に…
ふ　まったく
へんなことを
考えた
あの
ジェインと
いう娘…
ふふ
おまえを
やいていた
わたしとても
気にいり
ましたわ

エドガー どこだい
どこだい
メリーベルを お空に ほうりあげるよ
でて おいで
キャーアハハハ
メリーベルを お空に ほうりあげるよ
エドガー どこだい
どこだい ？
あ ここに いたのか ねむってたの？
……！
すこし うとうと してたらしい …夢を 見てた
夢？ いい夢？
い いとりであとに いったこと あるかい？
今度の日曜 いかないか
日曜はきみ ミサだろ
くだらない すっぽかすさ

ママ！アランは？馬車をおりたときはいたのに…！
ま！ていさいの悪い逃げたんだわ
あ おはようございます …おや アランは？
先生
ハア ホホ なにやらね カゼぎみなので今日は家に
ボーツネル男爵一家は…
いた！
バカだな わたしときたら… とにかく男爵夫妻は熱心なカトリックってわけだ
波のきわまでおりてみないか？

どこまで
おりるんだ？
岩がくずれたら
おしまいだぜ
スリルが
あるだろ
いやなことが
あっても
ふっとぶさ
そんなに家で
いやなこと
ばかりあるの？
……
…きみと
知りあって
よかった
きみは…
これまでに
ぼくのごきげんを
とるため
むらがってきた
やつらとは
ちがう…な
きみになら
なんでも…
話せそうだ

そしておまえは
愛するものを
ふたたびそのつめに
かけようとするのか
その
呪わしい一族に
くわえようと
いうのか
きみんちの妹
どうしてる?
メリーベル?
家にいるよ
…つれてくれば
よかったのに
の
…フフ…
な
なんだい
その笑い
かた!
王子さま
きみが遊びに
くればいい
きみん
ちへ…?
あの子は
あまり外へは
でないもの
病気?
…うん
そうだね
…からだが

ア…
アラン おどろかないで なんでもないんだ
アラン

逃げないで
なにもしや
しないよ
…もろもろ
の…
天は神の栄光を
あらわし…
大空は御手の
…わざを…
しめす……この日
……
……この日 ことばを
かの日につたえ
この夜 知識を
……かの夜に送る
語らず いわず
その声 聞こえざるに

そのひびきは
全土にあまねく
…そのことばは
地の果てまで
およぶ
カッ
カッ
カッ
願わくは
われをかくれたる
トガより
ときはなち
たまえ
カッ
願わくは…
願わくは…
願わくは…
願わくは…
ア…っ

ばれた!
逃がしたのか
なぜとどめをささなかった?
それより出発したほうがいい…すぐに…この市を
エドガー!
おちついてそこにすわれ
相手はだれだ…友だちかどうなった?
ねらったのは…彼の耳のすぐ下だ……つきとばされた
一番やわらかい場所だな
……それから聖書のことばを
聖書!?逃げてきたのかなさけないやつめ!
あれにはだめなんだこわくて…!あなただってそうだろ!?
ここはいい土地だ…最近急速に商業化してきた古い港町だ
外来者が多く市は若い
土地に根づいたいまわしい伝説や事件の影はない
人びとは進歩を喜びいっぱしの近代人ぶりだてきとうに信仰している……いい土地だ

みことばや
十字架や
塔を
恐れるな
そんなものは
単なる象徴に
すぎん
エドガー
帰ってたの!?
あ…
メリーベル
すぐいくよ
恐ろしいのは
…信仰だ
現に
わたしはけさ
教会へいった
われわれをふくめ
いっさいの異端を
認めない心
これは邪悪なものだ!
これはうそで
実在せぬものだと
狂信している
精神は恐ろしい
だが
この市の人間は
バンパネラなど
信じてはいない
アランは…でも
うたがってるかも
しれない……
疑惑など
打ちこわせ!
キ!
信じさせるな!!

サラサラサラ
おはよう
アラン！
……
……?
キラッ

くれるの!?
じゃ
ゆうべのこと
おこって
ないんだね
よかった!
きみが
つきとばしたから
ぼくはてっきり…
十字架…
ありがとう
たいせつに
するよ
………
きみは昨日……
へんだったよ…!
……
…ぼくはただ…
ただきみに
キスしようと
思っただけさ
首すじに?
…だ
から
きみがあんまり
しょぼくれてたんで
からかったのさ
メリーベルを
つれて
こなかったって
すねたじゃ
ないか

なにも
すねたり……
でも家に帰ったら
メリーベルがおこってさ
いっしょに
いきたかったのにって…
……夢を
見たのか
ゆうべの
ことは
だから今度
遊びにおいでよ
……メリーベルも
待ってるから……
光って見えた
青い目は……
血のように
赤い
くちびるは
……もやが見せた
まぼろし
だったか
このえものは
逃がさない
メリーベルの
ためにも
ぼく自身の
ためにも
ただ…とうぶんは
おとなしく
していると
しても…
ガチャ
アラン・
トワイライト
お母さんが
危篤です
…馬車が
外にきてる
すぐお帰り
なさい！
ガタン

アランさま!
母さんは?
今先生がたが……
どうなの!?
お部屋へおはいりにならないで……
アランさま!
……

バタン
サロンのほうに
おじさまたちが
お帰りになって
いらっしゃいます
じゃ
サロンには
いかない
…ア
ラン…
…アラン
…アランや
…お父さん
そっくりに
なって……
おまえ
そばに
いておくれ
母さんがいつ
神さまに
めされても
いいように
悲しくないよ
おまえが
いるから
おまえが
いるから
アラン
……アラン……
アランや……

だれか
そばにいて
ひとりでは
たえられ
ない……!
ノフニカ
きみはずっと
そこにいたのかね
…ねむらずに?
中にはいっても
いい?
お聞き
お母さんはね
心臓がとても
弱ってる
あと何日
もちます…?
わからない
とうぶんは
安全だろうが
今度大きな
発作が
おきれば
……

あの子のほうがさきにまいってしまいそうですよ
なになにがあっても子どもは生きていけるもんだ
バタン
とにかく今は助かった
……感謝します神さま
……ごめんなさいおこした?
ス……

なにをしてるの兄さん
なにも…おいで雨が海にふってる
ちょっといいながめだよ
それだけのことなのにふしぎね………
生命よ……その波のあいだの生命よ……
水より生まれときをへて死なば水に帰り
さらに生まれさらに永遠に
わが一族死なば風にとぶちりと消え
消え……
そのゆく果てもなし……

おじさん
話って?
バタン
まあ
ここへおいで
アラン
昨夜は
まったく
たいへん
だったな
いちおう安心
とはいえ……

レイチェルの
さきはながくない
だろう
かわいそう
だが……
まえまえ
から…

いってた
ことなんだ
もちろん
レイチェルも
賛成だし
……

おまえの
お母さんが
生きてるうちに
マーゴットと
結婚式を
あげたら
どうだね

マーゴットとは
結婚しない!

ま アラン
レイチェルを
安心させて
あげたくないの?
お母さんは
おまえの
ことだけ
心配してるのよ!

いやだ！
待て！うちのマーゴットのどこが不服だ！
おまえが孤児になるのを心配していってやってるのがわからんかっ！
あなた
アランこの親不孝者！
あなただめよここはなだめて…
おとなしくしたら？父さんがこうと決めたのよ
マーゴット！
きみもなんとかいえよ！クリフォード先生が好きだったんだろう
キャーハハ！バカね！あの先生には婚約者がいるじゃない
好きだったわそうよ先生はあたしに三度もキスしてくれたのよあんたみたいなチビなんとも思っちゃいないわ
でもやさしくしてあげてもいいわあんたはかわいそうなお金持ちのみなしごになるんだもの

ごめんだよ！
その顔はなによあたしみたいな美人にキスされて喜んだらどう…？
あん！なによなぐさめてあげたんじゃない！

コンコンコン
アラン！

エドガーは?
え?
エドガーだよ
いる?
いいえ
まだ学校から
帰ってないわ
布をもって
くる…ふかな
くちゃ
いいよ
ここにいて
ごめん
きみが
ぬれる
どうしたの
なにかあったの……
ぼくが
プロポーズしたら
おこる?

二年か四年か
あとでいいんだ
約束だけして
今……
きみがもっと
おとなになって
それは……
ムリよ……
ほん気だよ！
ほんとに！
約束だけでも
いいんだ……！
メリー
ベル…！
なぜ!?
ごめん！　どうか
してたんだ…いきなり
…ごめんよ
困らせて…
でもきみが
好きなのは
ほんとうだよ
……好きだ

アラン！
わたしたちと
いっしょに
遠くへいく？
—ときをこえて
—遠くへいく？
…ときをこえて
……？
お帰りなさいませ
アラン……！

わたしたちと
いっしょに
ときをこえていく
アラン
いやだ
いやだ
いやだったら
だれもぼくに
話しかけるな
そこにいるの
だれ？
そこにいるの
だれ？
みんなやるよ
みんなやるよ
もっていけ
マーゴット
ぼくが知らないと
思ってるんだ
エドガーきみは
バンパネラだ
ただの
カゼですよ
熱は高く
ありません
いこう
いこう
メリーベル
どこへいくって？

きてたの…
メリーベルがひどく心配してたよ
ぼくをせっついて見舞いにいけって
すこしばかりのどがいたいだけ
しゃべるとね
そりゃ悪いね…
でも もう熱はさがって……
明日にはおきられる……

ウ
診察ですか?
クリフォード先生
あ……あ……
そ…そう
じゃ ぼくは
帰るから
学校で
あおう
失礼
クリフォード先生
総毛立ってる
……なんだこれは
……この異様な
冷気は……!
……
伝説を
信じます?
え?
なんだね
伝説だよ
……たとえばね
バンパネラは
実在したと
思います?

……知らんね
わたしは見た
ことがないから
幽霊はひるまでも
見えるね……細い顔で
長い黒髪の……
あとになって
知ったが
それはわたしの
母だったよ
へんな話だ
でも幽霊は
信じるね
子どものころ
よく見た
幽霊!?
恐ろしかった?
ひるまでも
恐ろし
かった
どうって
いえないが
ふつう
見えるはずの
ないものを
見てしまった
異質さ…
これは
どうした?
指のあと
らしいが
あ…のどが
いたいって
いったら
エドガーが
ふざけて手を
おしつけたんだ
……でも軽くだよ
軽く?
赤く
なってる
で 先生
バンパネラ
いると思い
ます?

……ハハハ
あら！
おひさしぶり
ジェイン！
娘のメリーベルよ
せがむものでつれてきたの
あなたも帽子を？
……ええ
ジェイン ね
おたがいの帽子を見立ててみません？
買いもの！
これこそ女の特権よ
いらして
いやだわ
こんな美しいかたと
わたし
まるで
引き立て役

髪をあげて……
すこし昔風にぴっちりゆいあげて…緑より…そうね青がにあうわ
ま…わたしなんてみっともなくって…なにを着たって
あら! みっともない若い娘なんていやしません
髪よ まず髪をゆって
最新流行のバッスルスタイル
もちろん ウエストは細く胸をだして…娘らしく…!
色は…ええもちろん青よ! 青のタフタ
帽子は青よ……ああ! ぴったりのをもっていますわ 白い羽かざりの…!
ほら とてもすてきになれるわ うかんでくるでしょ 青い服を着たあなた……!
……
ね あたしにまかせて じゃ まず…
母さま……
ま…困ったわ
どうか?
なんでもないの この子すこしからだが弱くて…ふらつくの?

わたくしの家すぐですわ ちょっと お休みになれば?
まあ ごめいわくを……あら じゃあ
そのすきに わたし帽子をとってきますわ すぐに……
親しげなかた! もっと気どったご婦人と思ってたのに……
あ…メリーベル大丈夫…? その角よ 歩けます?
ええ ミス ジェイン
ポーツネル夫人! まそんな……
いいえ せっかくあの羽根帽子のにあうかたを見つけたのに見のがせないわ
ええ すぐもどってきますから!
ゴロ ゴロ ゴロ ゴロ……
ひと雨くるな…

シーラ夫人！
こんにちは……往診のお帰り？よくおあいしますこと
ヒュ
ウウ
ウ
雲が走ってますよおいそぎにならないと

浜をぬけようと
馬車をおりて
あそこに
小屋が
ピカ

■キリスト教の信仰のある地方では　神の怒りによって　罪人は落雷をうけて死ぬといわれている

カーテンを ひいてくれ エドガー あの光は どうも 好かん!
目に つきささる!
ぼくは 好きだな ちょいと ぞっとする けど……
母さんと メリーベル 帽子屋へ でかけ たって?
帽子屋のうらには カスター老先生の 家があって ジェインがいると いう寸法だ
つまり 下見
ものうい……
雷雨……
もう冬がくる…
雷が こわいんですか シーラ夫人
ええ…まるで…… わたしにむかって 走ってきそうで…!
罪人のような ことをおっしゃる
ああ いや 気をそらせて ほかの話を しましょうよ…
帽子屋で ジェインと あいましたわ

ジェインと?
ええ
あのかた
青い色が
とても……

大丈夫
大丈夫ですよ
——シーラ
青ざめたほお
長いまつげ
くちびる——

わたしはこの人を
今　この手に
だいている
あれほど
あこがれた
夫人を…たとえ
一瞬でも…なぜ…

魔性などと
うたがった
のか
クリ……

フォード……

脈がない……!!
…あ…あ…

悪かったわ……あなたのお母さまぬれたかもしれないわね……

伝説を
信じます?

失礼
クリフォード
先生

…知るか
それなら
バンパネラだ
ジェインさんは
心からおまえを
愛してるのに

人間では
ない!!
ジェインになんて
おっしゃるの…
動いてない
すべての血脈が
死んでいる
これは人間ではない

カターン

…これは夢だ!
あなたは
現実のものでは
ない
なぜここに
いるのです
…あなた自身の
ためにも…

打ちくだかねば…
これがわたしのとどめだ
この…まぼろし…

…逃がしたか…
それとも
打ちくだい
たか…

……！
どうした
エドガー
ドア
…が
わから
ないけど
…まさか
アラン…？

……
布を！
…ひどい
…左肩から
胸へかけて
ざっくりだ…
…クリフォ…
クリフォード？
あの医師か
…医師か？
シーラ！
気づかれ
たのか？
ええ
伝説を信じる
人間が　すくなく
とも　ひとりは
いたね
すぐ町をでる
あの医者を
殺せばいい
すぐだ…
コートを着て
駅で馬車を借りて
ちがう町へいく
母さまを
今動かしたら
助からない
せめて一日待って
出血がとまる
まで…
今逃げなければ
おわりだ！

輪がやぶれたのだ
シーラが
こうだ!
十万の市の
住人の波に
であったら
どうなる
カマ　クイ
十字架　さけび
人びと!
いくども
そういう光景を
見てきた!
老ハンナが
死んだときの
ことを
おぼえている
だろう
メリーベルは
!
…母さま
メリーベルは
どこ…!
キャッ

いいわよ こうしてなさいな 雷がこわいの?
ええ きらいよ 光が…光が
ガラガラガラガラ
ガラ…
…きれいな まき毛…
…ああ かなわないわ シーラ夫人には
あなたも お母さまににて 美しい婦人に 成長するんでしょうね
あらいやだ またわたしの ぐち…
…お母さま のことは…
なんにも 知らないわ わたしを 生んですぐ なくなったっ て聞いたわ
…ま メリーベル …… じゃ…
ただね… お母さまが 子どものころ 今のわたしと そっくりだった んですって
ジェイン シーラが 好き?
え? ええ あのかたはずっと おとなですもの 女らしい…
ときが たてば あなたも おとなに なるわ
…そう…かしら ほんとうに?
…明日は 今日より すばらしく…

ジャン！
はなれろ
……
…ジャ

ジャン…　ま…あ…
あ…あなた
いったいなにが
…こんな…
シーラを
殺した！

キャ……

ジャン！
それは
魔よけの
銃よ！
そうとも

弾がはいってる
はずだな！
…銀製の！
ジャン！
お願い
おちついて
わたしを
見て！
あなた
なにをいってる
のか　自分で
わかってないのよ

岬の家に
住んでいるのは
悪魔の一家だ!!
わたしは
くるっちゃいない
ジャン！
なにをいい
だすの！
…ちがうと
いうのなら
これで十字を
きってみろ！
アク
きゃあー

ガラガラガラガラガラガラガラガラ
メリーベル！
メリーベル
なにをしてるの
十字架をひろって！
ひろって
！
エドガー！
エドガー！

ジェイン！
なんだ？
おい
いったい
なんの音だ！
ジェインも
見ました！

ジェイン？
どうした？
お嬢さん！
ショックで
気をうしなって
るだけです！
ジェイン
！
ア…ア…ア
ギャーッ
クワを持て
クイを持て
十字架を
かかげて
！
クリ
フォード
うちくだけ
悪魔を！
悪魔を！

そのぬれた服をなんとかしろ！お嬢さんをねかしつける
それからどういうことか話を聞かせてもらうぞ！
願ってもない！ジェインも見たんだから
先生だって信じないわけにはいくまい
信じる？なにを！
悪魔を！
…くるったんじゃあるまいな
まさか！
ギ！
あれも神のつくりたもうたものか？…なんのために！
これが神の雷なら…あの岬の家こそくだけ散れ！
メリーベルの悲鳴が外まで聞こえた
…ぼくはまにあわなかった…

これはあなたが
メリーベルを
撃った銃だ
…悪霊…!
消えろ…!
おまえたちは
実在しない!
実在している
あなたがたよりは
ずっと長い時間を
……
なにか
いいのこす
ことは?
カッ
消えろ!
おまえたちはなんのために
そこにいる
カッ
カッ
なぜ生きて
そこにいるのだ
この悪魔!

…なぜ生きているのかって……
それがわかれば!
パリン!
ガシャン!
創るものもなく
生みだすものもなく
うつる
つぎの世代に
たくす
遺産も
なく
長いときを
なぜ
こうして
生きている
のか
…すくなくとも
ぼくは

ああ
すくなくとも
ぼくは…
シーラっ…
あ
ロ・・・
わが妻
わが愛
わが運命を
わけし
者ども

事故だ
こりゃ
ひっでえっ
さらば
さらば
むちゃだ
この坂を
角も見ねえで
すっとばして
きて!

ひとりは
馬車の下に
なったぞ
見たんだ!
うそっけ
馬車の下には
だれもいねえっ
それを
どけろ
……さらばわが
遠き日び……

ク…

フ…フ

幕だ すべてはおわった！
ぼくは自由 ぼくはこの世で ただひとり
もうメリーベルのために あの子をまもるために 生きる必要もない
生きる必要も ない……
アランさま
お起きに なっても よろしいのですか
ああ 熱は ないいんだよ
母さんにそう いっておかないと 心配するから
アランが… マーゴットとの 結婚を いやがってるんだ
おじさんだ

なあレイチェル
おまえから話すのが
一番じゃと思うが
あれはまだ子どもで
なにも
わかっとらん
商会のことも
みんなだ!
そうきつく
だかないで…
また胸が
苦しくなるわ
おまえ
アランに話して
くれるかい
いいわよ
話しておくわよ
あなた
たのむよ
おまえ

ドン
アラン
待ちなさい
話がある
…アラン
今
レイチェルとも
話してたんだが

マーゴットとの
マーゴットとの結婚についてだ
レイチェルはひどくざんねんがっていたよ
レイチェルはさ…

人殺し！
人殺しーっ
アランさまっ

アランさま！お待ちなさい
アラン！
あなたーっ
とうさま！とうさまー！
アランさま！
アランさまアランさま
そこにいらっしゃるんですよいいですね！
すぐにすぐに先生を……！
…あ…メリーベルメリーベル……だれか……
たすけて…メリーベル…
メリーベルはもういないよ

メリーベルはどこ?
知ってる?
きみは人が生まれるまえにどこからくるか
知らない…
ぼくも知らない
だから
メリーベルがどこへいったか
わからない
…生まれるまえに…!?

ぼくは
いくけど…
どこ…へ
遠くへ
きみはどうする？
…くるかい？
おいでよ
……
きみも
おいでよ
ひとりでは
さびしすぎる
……

カチャ
カチ!
アランさま!
おじさまは
大丈夫
ですよ!
おじさまは…
アランさま!?
アランさま!
風につれて
いかれた…!?

通りすぎる
ときどきの間に
ささやき　笑い
まなざしを送りかわし
夢を織る
人びとの
あいだを
走り走り
このときの
流れの果てに
なにかあるの
なら……

「ポーの一族」1972年10月